

産業支援センター「プレインキュベーションルーム」 入居企業 4室中3室決まる

創業や研究開発を支援する「函館市産業支援センター」(桔梗町)内に4月から新設された「プレインキュベーションルーム」4室のうち、3室の入居者が決まり、稼働する。3社はいずれも函館に新たに進出する企業で、市は残る1室も3~17日に再募集する。

「プレインキュベーションルーム」4室を整備。新しい技術や製品の開発に取り組むための貸し研究事務室で、1~2人用の9平方メートルのタイプを2室、2~3人用の14平方メートルのタイプを2室設けた。3社の応募があり、審査会を経て入居が決まった。使用期間は4月1日から2020年3月31日。現地スタッフの採用も予定している。

健康食品や化粧品製造、販売などを手掛ける「ソフレインターナショナル」(兵庫県川西市、澁谷恵子社長)は、ガジェットなど、ぜひ活用してほしい」として

創業や研究開発を支援する「函館市産業支援センター」(桔梗町)内に4月から新設された「プレインキュベーションルーム」4室のうち、3室の入居者が決まり、稼働する。3社はいずれも函館に新たに進出する企業で、市は残る1室も3~17日に再募集する。

「プレインキュベーションルーム」4室を整備。新しい技術や製品の開発に取り組むための貸し研究事務室で、1~2人用の9平方メートルのタイプを2室、2~3人用の14平方メートルのタイプを2室設けた。3社の応募があり、審査会を経て入居が決まった。使用期間は4月1日から2020年3月31日。現地スタッフの採用も予定している。

健康食品や化粧品製造、販売などを手掛ける「ソフレインターナショナル」(兵庫県川西市、澁谷恵子社長)は、ガジェットなど、ぜひ活用してほしい」として

着目。有効成分を使った化粧品などの研究のほか、将来的工場立地を見据えた調査を行う。

IT企業「デジタルライズ」(名古屋市中区、柴田幸彦社長)は、顧客データを活用し、業務改善につながるシステムを開発する。公立はこれまで未来大と連携し、18年度には製品販売を予定している。

AIハヤブサ(村松洋明社長)は、人工知能(AI)ソフトウェアの研究・開発などの「ミラック光学」(東京の村松社長と、松原仁公立はこだて未来大教授が3月16日に函館で立ち上げたベンチャー企業。AIと画像処理技術を組み合わせ、水産加工分野での異物混入の検査システムを研究開発する。

残る14平方メートル1室の使用料は月額7390円。市経済部は「進出、創業どちらでも受け入れる。低料金で拠点を提供できるので、ぜひ活用してほしい」として

いる。問い合わせは工業振興課(0138・21・3314)へ。

(山崎大和)

健康食品や化粧品製造、販売などを手掛ける「ソフレインターナショナル」(兵庫県川西市、澁谷恵子社長)は、ガジェットなど、ぜひ活用してほしい」として

健康食品や化粧品製造、販売などを手掛ける「ソフレインターナショナル」(兵庫県川西市、澁谷恵子社長)は、ガジェットなど、ぜひ活用してほしい」として